
魔王降臨伝ON I

まるさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王降臨伝ONI

【Nコード】

N3067Y

【作者名】

まるさん

【あらすじ】

ホムラベキリマル 炎部鬼吏丸はオニ隠忍である。

神殺しの魔王とまつろわぬ神、そして守護たる鬼神が交わる時、世界は新たな物語を紡ぎだす！

※この小説は『カンピオーネ！』と『ONIシリーズ』の（一応）クロスオーバー作品になっております。

オリジナル要素が多々入りますので、そう言うのが嫌な人はご遠慮ください。

神殺しのいる風景（前書き）

妄想が溢れだしたらこんなものを書いてました。
楽しんでいただけたら幸いです。

神殺しのいる風景

「き、来たぞ、鬼吏丸^{キリマル}！あ奴が来た！」

授業が始まるまでの間をまどろみながら待っていた炎部鬼吏丸^{ホムラベキリマル}は、甲高い子供の声で覚醒した。

「もう来る！もう来る！……ほら来たあっ！」

「うるせえ」

その声に促されるように教室の後部扉を見れば、件の人物——草薙護堂が入ってくる所だった。

「羅刹の化身だぞ！神殺しだぞ！怖いな、なあ鬼吏丸、怖いなあ！」

「そんなに怖いなら学校に来なきゃいいだろ、お前」

周囲の者に聞こえぬよう、鬼吏丸は小声で話した。

「何を言うか！」

そう言って、声の主——倉ぼっこは何故か胸を張った。

「我は数百年とこの地に生きる大妖怪ぞ！さればこそ、あのような暴虐の輩が何かせぬか、監視せねばならぬのだ！」

「……じゃあ万が一草薙が暴れ出したら、お前が戦えよ？」

「たわけ！」

倉ぼっこは偉そうな態度を崩さない。

「我の様な高貴な大妖怪はその様な荒事はせぬ物だ！ゆえに、あの神殺しと死合うのは、主の役目ぞ！」

「……草薙より先にぶっ飛ばしてやろーか、このガキ……」

歯ぎしりする鬼吏丸を放って置いて、倉ぼっこは再び「怖いなく、怖いなく」とやりだした。

その姿はどう見ても度胸試しに怖い犬を触りに行くような、ガキの姿そのものであり、本人自称の大妖怪の威厳など欠片も存在していなかった。

因みに、倉ぼっこは周りの人間に姿が見えぬように術を己に掛けているため、気をつけないと鬼吏丸は虚空に話しかける危ない人に見える。

われてしまう。

自身の境遇と、面倒くさい同居人、更にはきな臭い同級生と厄介事が束になってかかって来ているように感じた鬼吏丸は高校生らしからぬ深い深いため息を吐いた。

※

かつて、この地が秋津島と呼ばれていた程の古来より、オニ隠忍、或いは鬼神と呼ばれた者達がいた。

彼らは人の心と妖の力を持つ守護者達。かの地に危機迫る時立ち上がり、人に知られずまでもこれらを打倒し、封じて来た。

そして、炎部鬼吏丸は、その隠忍達の末。現代に甦った、鬼神である。

神殺しのいる風景（後書き）

……やっちゃったよorz。

別の連載小説書いてんのにまた連載なんて立ち上げてるよ……。

そんな理由で、この小説はわりと不定期な更新になると思います。
書き捨てたりはしないので、そこだけは安心してください。

次回は……いつになるんだろう（笑）。たぶん、主人公達の設定を
公開するかと思います。

それでは、また次回。

主人公設定（前書き）

思ったより早く更新できた……！
本小説でのメインキャラクターの設定です。

主人公設定

名称…炎部 鬼吏丸《ホムラベ キリマル》

年齢…十六歳

容貌…身長は190?台とかなり背が高い。黒髪黒眼、割と整った顔立ちをしているが、目つきが鋭すぎるのと背の高さのせいで、その要素はむしろ威圧感を与えするというマイナス要素にしかない。

備考…十五歳になったばかりの頃、とある事件のせいで魔神器の一つ『鬼雷石』によって隠忍に覚醒する。

特殊能力…地張流忍術・転身

所有魔神器…『鬼雷石《キライセキ》』

隠忍名称…紅蓮童子《グレンドウジ》

備考…鬼吏丸が『鬼雷石』の力によって転身した鬼の化身である隠忍。

特殊能力…鬼神拳

※鬼神拳設定…はつきり言って「無限のフロンティアEXCEED」の鬼神拳その物です。オリジナリティのない作者ですいません。

※とある事件設定…簡単に言うと封印されていた倉が開かれ、魔神器が世に流出してしまった事件。小説内の現在においては既に解決済み。

名称…葛葉 凜音《クスノハ リンネ》

年齢…十七歳

容貌…身長は180?台と女子にしてはかなり高い。長い黒髪を高い位置で結わえ流している。目鼻立ちの整った美人なのだが、可愛いというより格好いいと言う感じのため、女子に慕われるのが悩み。実家に伝わる剣術を嗜む。

備考…鬼吏丸が隠忍となる切っ掛けとなった事件に偶然関わってし

まい、その結果魔神器の一つ『姐己絵図《ダッキエズ》』の所有者となる。

特殊能力…古流剣術・転身

所有魔神器…『姐己絵図』

隠忍名称…銀孤麗姫《ギンコレイキ》

備考…凜音が『姐己絵図』の力によって転身した銀の狐の化身である隠忍。

特殊能力…妖狐妖術

名称…倉ぼっこ《クラボッコ》

年齢…数百歳

容貌…7、8歳ほどの男の子の姿。

備考…魔神器の封印されていた倉の管理人なのだが、とある事件によって目覚め、同時にばらまかれた魔神器の回収を鬼吏丸に強要した。事件が終わった後もあまりに様変わりした世の中を面白がり、鬼吏丸の家に居候する。

名称…チャンドラ

年齢…不明

容貌…壺。

備考…鬼吏丸の先祖とも関わりのある「まつろわぬ神」。芸事を司っているが、元を辿ると相当有名な神の分霊《ワケミタマ》らしい。現在は魔神器の一つ『咤枳尼天壺《ダキニテンコ》』に宿っている。とある事件の際に倉ぼっこの手により連れて来られ、そのままやはり居候中。何故か関西弁を話す。

名称…ウルーパーイ

年齢…数百歳

容貌…薄紅色の長い髪をしたスタイル抜群の美女。しかし本性を現すと、下半身が蛇身となる。

備考…チャンドラの奥さん。ナーガ龍族の王女の娘だが、本人はその立場をぶちぎって何百年もチャンドラと一緒にいる。チャンドラの事が大好き。チャンドラが鬼吏丸の所へ連れて来られた際、当たり前前のように着いて来て、現在も当たり前前のように傍にいる。

……こんな感じのメンバーで話を進めて行きたいと思ってます。感情移入のほんの一助にでもなれば幸いな設定集でした。

主人公設定（後書き）

「ONIシリーズ」はいまだ大好きなゲームの一つです。ONIと聞くだけでテンションが上がるくらいに。
では、次は本編でお会いしましょう。

一家に一つ、喋る壺（前書き）

俺、いつか「ONI 零」の続きが出るって、信じてるんだ……。

一家に一つ、喋る壺

その日、炎部の家の食卓を4人の人物が囲んでいた。

一人は家主たる鬼吏丸。

もう一人は自称大妖怪、年齢数百歳のエターナルシヨタ、倉ぼっこ。もう一人は薄い紅色の長い髪をした、スタイル抜群の美女。

そして最後の一人は――壺、である。

「はい、チャンドラちゃん、あ〜ん？」

美女――ウルーピィが今夜の夕食であるおでんの大根を壺の中に箸で入れる。

「あ〜ん、ってあつっ!? あつっ!? つ、壺やから逃げられんし!」

チャンドラと呼ばれた壺ががたと動きながら喚いた。

「お主ら、『咤^{ダキニテンコ}枳尼天壺』をあまり汚すでない!」

さっきからおでんの卵ばかり食べている倉ぼっこがその様子を見て怒る。

「なんだこれ」

改めて自身の置かれた状況を見て、その異常さを認識した鬼吏丸がため息を吐いた。

(まあ、ちょっと前までの寂しい夕食に比べれば、まだいいか)

ここ一年で急に人口密度の増した我が家を、鬼吏丸はそれほど悪くは思っていない。

「ウルーピィ、今度は卵喰わせてえな」

「はい、チャンドラちゃん？」

「待つのだ! ここにある卵は全て我の物だぞ!」

「はあ〜? 卵に名前でも書いてんのか、がきんこ。大体子供が偏食したらあかんやろ。野菜も食べ!」

それほど悪くはない……。

「誰ががきんこだ! お主は昔っから我をそう呼びおって! 無礼であ

ろう!」

「だってわしの方が年上やし。それにわし神様やし。がきんこより偉いも〜ん」

「くうううっ!に・く・た・ら・し・い・ぞ〜!なんでお主が神なのだ!全然らしくないであろう!」

「常葉丸にもよくそれ言われたわ。実際、わしも清志郎はんの方が神様っぽかったって自分でも思うし」

「そんな事無いよく。チャンドラちゃんはある、ちゃ〜んと神様できてるよ〜」

「おう、ありがとな〜ウルーパイ」

「どういたしまして〜?」

悪くは……。

「いちゃいちゃするでない!子供もおるのだぞ!」

「なんや、自分の事かいな。わかつとるやないか、がきんこ」

「がきんこって言うなー!」

「チャンドラちゃん、卵だよ〜?」

「あんがと、ウルーパイ……って、あつっ!?またあつっ!?」

「『魔神器』を汚すなー!!」

「うるせえっ!!飯ぐらい静かに食えっ!!」

あまりの行儀の悪さとうるささに、鬼吏丸はついにキレた。

最近の炎部家は、いつもこんな感じである。

一家に一つ、喋る壺（後書き）

短いけど、以上です。

「彼ら」の日常はこんな風に進んでいます。

次回からは第一巻突入編。と、言ってもかなり最後の方から関わり出しますが。

それでは、また次回。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3067y/>

魔王降臨伝ONI

2011年11月9日16時08分発行